

2011年(平成23年)11月4日(金曜日)

第3363号

(2)

第3種郵便物認可

(週刊)

政府は3日（文化の日）秋の褒賞、学術研究関連では天文学の家正則氏、植物学者教授は、情報科学の分野において特に大量データの蓄積・共用、有効活用に関するデータ工学について研究し、新たなデータベースモデルを確立した。

■家正則氏（62歳、国立天文台教授）は、天文学の分野において、すばる望遠鏡の要となる独自技術を開発して129億光年かなにした。人類が見た最も遠い銀河を発見した。

■丸岡啓二氏（58歳、京都大学教授）は、有機合成化学の分野にの並列研究において、環境調和型のキラル相間移動触媒や、さらに高活性な触媒を開発して、トドメの研究を世界記録の貯蔵をした。

■福井正則氏（61歳、東京大教授）は、植物学者教授は、11人が紫綬褒章を受章、うち11人はは15日に東京・一ツ橋の如水会館で行なった。

「紫綬受章」自然科学系11氏の業績

構とそれに至るシグナル伝達経路を解説した。

■西澤直子氏（66歳、東京大学
名誉教授）が、直切关爱丝の分野

政府は3日（文化の日）、秋の褒章受章者を発令した。学術研究関連では天文学の家正則氏、植物栄養学の西澤直子氏など24人が紫綬褒章を受章、うち11人が自然科学系。伝達式

西尾章治郎氏（60歳、大阪大学教授）は、情報科学の分野において、特に大量データの蓄積・共開発して医薬品合成や各種アミノ酸の実用的合成に成功した。

月 有効活性に關する、³⁾ 三三
教科書は、機関物質化の分野を
について研究し、新たなデータベ
ースモデルを確立した。

■ 1911年1月(6歳) 国立天文台 精密機器の起業合會有志会員として
教授は天文学の分野において、世界記録を達成し、水素の運搬・
すばる望遠鏡の要となる独自技術 貯蔵を可能にする半酸触媒を開発・
開拓して、ついで意出仕からはじめる。

■石川正俊氏（57歳、東京大学教授）は、情報システム・ロボット工学の専門家で、人間が見た最も遠い銀河を発見した。

秋の褒章

構とそれに至るシグナル伝達経路を解明した。

氏の業績

■西澤直子氏（66歳、東京大学名譽教授）は、植物栄養学の分野において、イネ科植物の鉄吸収のメカニズムを解明した。

■小柳光正氏（64歳、東北大学教授）は、半導体電子工学の分野において、コンピューターの主記憶として用いられるDRAMで三次元スタックドキャパンサ型メモリセルや三次元集積回路（3D-SI）を開発した。

■辻省次氏（60歳、東京大学教授）は、神経内科学の分野において、神経変性疾患の病因を分子レベルで研究し、特に遺伝性神経疾患であるポリグルタミン病の病因遺伝子を発見、病態を解明した。

■岸本健雄氏（64歳、東京工業大学教授）は、細胞生物学の分野において、MPF（卵成熟促進因子・M期促進因子）の発見を基に、卵細胞の成熟・減数分裂・受精過程における細胞周期制御の分子機

植物の鉄獲得機構に関するトランスポーターを発見し、鉄栄養制御のメカニズムを解明した。

■内海英雄氏（64歳、九州大学名譽教授）は、物理系生物学の分野において、生体の恒常性維持に関するレドックス代謝（生体内の酸化還元反応）を解析する手法を研究し、生体磁気共鳴画像化装置を開発し、レドックス代謝検出法と組み合わせた生体レドックス法（スピノープローブ法）を確立した。

■清野進氏（63歳、神戸大学教授）は、糖尿病・代謝学の分野において、分子レベルでのインスリン分泌機構の解明や、新たなインスリン分泌増強メカニズムの発見